

宇都宮市立錦小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、肯定的回答の割合が国語は75%、算数は77.3%で、県や国の平均を上回っていた。児童の生活に関連させたり他教科で活用させたりしながら授業を行うことで、これらの教科が社会で役に立つと意識する児童が多く見られる結果となったと考えられる。今後も、学習したことがどのような生活場面で生かすことができるか、児童と一緒に考えながら授業に取り組む。

○「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」との質問に対して、肯定的回答の割合が県や国の平均を上回っており、多くの児童が今後役に立つことや自分がすべきことを理解したり実践したりし、主体的に学びを広げたり深めたりしようとしていることが窺える。これからも児童一人ひとりが達成感を感じ、目的意識や課題意識をもって学習することができるよう授業実践をする。

●「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の質問の肯定的割合は76.1%で、県より8.6ポイント、国より5.6ポイント下回っていた。また、「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の質問に対し肯定的割合は73.3%で、県より2.7ポイント、国より1.2ポイント下回っていた。実際に、全ての教科の「書くこと」の分野において、問題に解答しなかったり途中であきらめたりしている児童が多く見られたので、様々な教科や活動において、日常的に「書く」学習を設けていく。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して、肯定的回答の割合は52.3%で、国や県の平均を上回った。総合的な学習の時間では、児童が自分の興味や関心がある事柄から課題を設定し、調査方法を工夫しながら解決していくことができる授業を行っている。また、調べたことをポスターや新聞、スライドにまとめて発表する活動を通し、相手意識をもちながら取り組むことができている。自ら工夫し、進んで取り組めるような授業をこれからも行っていく。

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」という質問に対して、最も多い回答が「30分以上、1時間より少ない」で45.5%で、次に多かったのが「1時間以上、2時間より少ない」で22.7%であった。8割以上の児童が、家庭での学習でICT機器を使用しているという結果となった。「全く使っていない」と答えた割合が県や国と比べて11.8ポイント低いので、家庭でもICT機器を活用している児童は多い結果となっている。今後も、学校での学習だけでなく、家庭でも自主学習や調べ学習などで有効的に活用する方法を児童に伝え、併せて興味があることや疑問、学習して分からないところなどを自分で解決していく力を伸ばしていく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的回答の割合が88.6%と県や国よりも上回った。全ての児童がいじめは許されないことだということを理解できるよう、「いじめゼロ強調月間」や「いじめゼロ集会」の取組、道徳や学級活動の時間を通して、いじめについて真剣に考える機会を設けていく。

宇都宮市立錦小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|------------------------------|---|---|
| 「主体的・対話的で深い学び」をめざした算数科の授業の創造 | 主体的な学びの中で、自分のこれまでの学びや友達、先生、教材など様々なつながりを意識しながら、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を育成すること | 授業に進んで取り組む児童や学習の必要性を理解している児童が全国平均よりも多く見られた。また、分らないことや詳しく知りたいことを自分で工夫して学ぶ児童が全国平均よりも約20ポイント高い割合であることは、前向きで最後まであきらめない学び方をしていることが窺える。しかし、今回の調査では、文章を書く問題に最後まで解答を書くよう努力した肯定割合が全国平均より5.6ポイント低かった。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|--|---|--|
| 全ての教科の「書くこと」の分野において、問題に解答しなかったり途中であきらめたりしている児童が多く見られた。 | 様々な教科や活動において、具体的な場面を設定して言語活動を行いながら、日常的に「書く」経験を取り入れ、能力の育成を図っていく。 | 様々な教科や活動において、具体的な場面を設定して言語活動を行いながら、「書く」経験を積ませていく。書く題材に必要な事柄を集め順序よく構成を考えさせるなど、「書く」前に整理させたり、つながりのある文章を書くために既習事項をしっかりと押さえたりすることで段階的な指導を行う。また、書いた文章の間違いに気付き直すことができるよう、その都度読み返すことを習慣付けていく。また、時間を意識して「書く」習慣を身に付けることで、あらゆる場面における実践的な「書く」力を養う。 |